



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2026年4月1日

4月

 290号

奈良・人と自然の会



コナラ、クヌギのドングリを植えています



Contents

ホームページではカラーで見ることができます

URL <http://www.naranature.com>



ならやまプロジェクト	1	海外ボランティア (パナマ3)	7
Monthly Repo ならやま	2	南米の旅	8
里山の今 (エコG、景観G)	3	きょうみ森森	9
シイタケ菌打ち里山体験レポ	4	ギャラリー	10
月例研修会 (賀名生梅林散策と農悠舎王隠堂で食事)	5	幹事会報告、こもれび	11
ならやま古今	6		

ならやまプロジェクト

**明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて**

お水取りも過ぎ、ようやく春到来。12月から身も心も温めてくれた豚汁も3月12日でいったん終了。この間、お世話いただいた方々に感謝。

昨年度は動力機器の故障が頻発し修理費が高んで支出が予算を上回ったが、何とか繰越金のおかげで対応できた。機器の老朽化が進む中、安全面からも、これまで以上に適切な取り扱いと点検整備が必要だ。2026年度が始まった。支援いただいている関係先の期待にも沿えるよう新たな気持ちで取り組みたい。

桜だよりが届き始め、ならやまの川井桜も3月19日に開花宣言。4月2日の桜まつりは、新入会員の歓迎も含めて盛り上がることだろう。



満開の川井桜(3月26日)



ならやま雛の勢ぞろい(2月26日)

4月の活動特記事項 活動日：2(木)、9(木)、16(木)、23(木)、30(木)

4月2日(木)：ならやま桜まつり、春の自然観察会、協働活動(アダプトプログラム)

4月30日(木)：協働活動(佐保自然の森草刈り)

4月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山林内整備(No.4 枝葉処理)、下草刈り(No.18)、自然の森梯子階段更新、薪割り
エコファーム	野菜畑の整備・定植、除草・堆肥入れ、野菜の収穫、水田の整備・粃撒き、鹿害予防ネットの整備
景観	整備：竹林整備、彩の森草刈り、佐保自然の森草刈り ビオ：池・水路の景観保全・整備、タナゴ生育状況定期調査 花： BC入口アジサイ園・道路沿い花壇の草引き
パトロール	1～3コースパトロール、観察路整備(階段、安全ロープ)、自然の森梯子階段更新、春の自然観察会
果樹	竹林整備、地盤・土壌改良、カブトムシ幼虫採集

活動日：毎週木曜日 9:00～15:00

前日の17時発表の気象庁予報(NHKTV(奈良)19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日に順延、翌日も同予報であれば中止。



Monthly Repo. ならやま

富井 忠雄

2月21日(土) 晴れ 佐保台小学校の親子他
36名+当会スタッフ18名
椎茸イベント(菌打ち、植樹など)実施。

2月26日(木) 晴れ 64名

会員有志が制作したひな人形を持ち寄り、展示。来年度の会費徴収についてお知らせ。

里山 G はシイタケイベントの残りの苗木植樹、ホダ場の草刈り、薪割り。エコ G は白菜、人参などの収穫、ジャガイモの種の植付け、鹿害予防ネットの補修など。景観 G は植樹の手伝い、道路沿いのゴミ拾い、竹林整備。花班は道路沿い花壇の草引きなど。ビオ班は植樹の手伝い、スイレン池の泥上げ掃除など。パトロール G は観察路2コースのパトロール、観察路案内銘板の製作、エントランス広場の橋の滑り止め加工など。果樹 G は BC、実りの森に寒肥の施肥。

3月5日(木) 晴れ 63名

協働活動でシイタケ菌打ち、アダプトプログラムを行う。3月3日の月例研修会の報告、28日実施予定のわいわい桜祭りのスタッフ募集。

里山 G はシイタケの菌打ち作業、竹林入口の



橋の更新用材料の準備、苗床整備とどんぐりの植付け。エコ G はニンジン、白菜などの収穫、大根等の種まき、鹿害予防ネットの補修。景観

G はシイタケ菌打ち、アダプトプログラム、竹林整備。花班は道路沿いの花壇の草引きなど。ビオ班は西池北の湿地の土手修復、南水田東側



湿地の土手の修復。パトロール G は観察路3コースのパトロール、ミーティング、桜山周辺の木

の枝払い。果樹 G はレモンの枝の誘引、カラタチの苗床の除草、山芋の植え床作りなど。

3月12日(木) 晴れ 72名

+2名(見学体験1名、うみの森保育園1名)

里山 G は A 地区の枯死木処理、仮伏せ楢木の遮光ネット掛け、薪割りなど。エコ G はわけぎ、なばななどの収穫、玉ねぎに追肥と除草、堆肥の散布など。景観 G は彩の森の伐採木の回収、竹林整備など。花班は山野草園の草引き。ビオ班は西池北側湿地内の木道の撤去。パトロール G は観察路1コースのパトロール、丸太階段の補修、竹林入口の橋改修など。果樹 G は柑橘類の剪定の講習会を行い、他 G から 3 名参加、カイガラムシ対策など。

3月19日(木) 雨のち晴 53名

+1名(見学体験)

川合桜が開花。雨の影響で参加者が少ない。備品の棚卸・点検・整備を行う。

里山 G は薪玉の運搬、クヌギ苗床の鹿よけ棚の設置、薪割りなど。エコ G は春野菜の種まき、鹿害予防ネットの設置、なばな・椎茸などの収穫。景観 G は備品倉庫の点検、竹林整備など。花班は山野草園の草引き。ビオ班は西池北側湿地内の木道撤去、ビオエリアの水路点検補修など。パトロール G は観察路の案内・銘板の支柱のやりかえ、ショウジョウバカマ生育地の保護棚更新など。果樹 G は BC の柑橘類の剪定。

エコファームグループ

仲間への感謝

佐竹 樹之

朝、JR線のトンネルを抜けると、道の左右の木立や田圃や池が迎えてくれ、空気も景色も一変します。何度も通り慣れた道ですが、四季折々の変化を感じ、心が落ち着きます。道を進むと、そこには既に到着した人が、焚火を準備したり、活動に使う道具を用意したり、そこかしこで歓談したり、実に心温まる様子を毎回見ることができます。こうした景色を目にすると、仲間の人たちの存在の有難さを強く感じます。会のモットーである「明るく、楽しく、無理をせず、あなたも私も、力合わせて」を正に実践しているなどと思います。

エコグループの活動にも慣れ、グループの人たちと冗談も交えながら活動する時間は、楽しくかつ短くも感じます。肉体的には疲労感が有っても、精神的には爽快感が残り、実に充実したひとときです。特に休憩時などの会話では、未経験の世界を感じ、改めて様々なことを教えて貰います。例えば獣害対策を考える際、基本方針を話し合い、具体策を考え、その為の資材を考え、それらを自分たちで作成したり、あるいは購入したりしながら進めています。そうした場面で、現場を測量し、そのデータを図面に表示し、設計図面を作る人が居て、その作業ぶりに驚きました。職場での経験がこうした場面で発揮されるのを見ると、感激すら覚えます。作業工具を巧みに操り、手際よく進めていくのを見て、少しずつ自分も出来るようになり、楽しみが増えました。こうした経験が出来るのも、会員同志が相互に協力し、支え合いが有ってこそです。仲間と一緒に汗をかき、物事を進めてゆくことの素晴らしさを感じます。こうした環境を出来る限り守り続け、将来に引き継いでいく為に、自分に何が出来るかを考えながら、この活動に参加していこうと思っています。



景観グループ

ニホンミツバチとランの花

中川 徹

2025年度の養蜂は16箱の待ち箱を各所に設置し、ニホンミツバチの自然分蜂を待ちました。分蜂が始まる4月、5月の下旬までミツバチの飛んでいる姿も見られませんでした。巣箱には蜜蝋をぬり入居を毎日、毎日待っていました。



5月の下旬に自宅のキンリョウヘンが咲きました。東洋ランの仲間、その

花はミツバチが分蜂時に放出する香りとおなじ物質をだし、ミツバチを誘引する花として知られています。

巣箱の前に切り花を置くと、なんと、次の日にはミツバチが花の周りを飛び回っていました。

5月29日に彩りの森に1箱、実りの森に2箱で花粉を巣箱に運んでいるのを確認しました。キンリョウヘンの花の威力には驚きました。初めての経験でとても感動しました。

彩りの森の群は蜂数も多く、秋にはハチミツをいただけるかと思っていました。

しかし、8月に天敵のオオスズメバチの攻撃を受けました。巣箱の入り口に金網フェンスをつくり防衛しました。

残念ながら、しばらくするとミツバチがいなくなりました。巣箱を開けるとハチミツもありません。ハチミツを腹いっぱい食べ、安全な場所に全員で逃げたのです。

ニホンミツバチは巣の環境が悪くなると新しい巣を探して転居する性質があり、その習性が種の維持に役立っています。

シイタケ菌打ち里山体験レポ



戸田 博子

2月21日(土)、近隣の佐保台小学校児童を中心として、児童18名、保護者10名、佐保台小スタッフ8名、計36名の参加者に対して会員18名が対応、植樹・シイタケ菌打ち体験イベントを実施した。このイベントは「花博記念協会」と「みどりうむアクション」のご支援を得ている。2月としては暖かく、この上ない天候に恵まれた素晴らしい日となった。

会の活動は明るい落葉樹の山林の再生を目指しており、部分的に皆伐して植樹することの有用性と今回の植樹はその一環であること、そして伐採した木を活用してシイタケ栽培を行い薪材にも有効活用し自然の恵みを大切にしていること、このイベントを通じてその活動に協力していただくことの意味が説明された。安全注意事項などの説明があり、その後早速、全員ヘルメットをつけ、2班に分かれて菌打ち場所である機関車広場と植樹地に向けてそれぞれ出発。菌打ち現場では、会員が楢木に植菌のための穴をあけ、その穴に駒菌を打ち込むのであるが、駒菌は円錐形であり反対に打ち込まないよう、また、駒菌が完全に中に入るまで打ち込むように、といった注意説明があった。そして植菌後は本伏せや天地返しなどのあと二夏を過ぎないとキノコは出てこないことが説明された。子供たちはよくわからなかったかもしれないが保護者やスタッフは興味深く聞いていた。

子どもたちは競うように、駒菌を小さな木槌で打ち始めた。未就学の小さな子供たちも意外

と上手に打つので会員が楢木に穴をあけるのが追いつかないほどだった。菌打ち後、シイタケ栽培地に立ち寄り、2年前に植菌された楢木が立てかけてあるのを見学。連日の寒さと少雨のためにまだ「春子」はほとんど出てい



<僕もやりたい

うまいね!!>

かったが、小さく出ているシイタケに興味津々。

次は植樹地へ。10年前に植樹された林やこの数年に植樹された稚樹たちを見ながら、里山林を散策、頂上の見晴らし台からの眺めを楽しみ…とはいいながら、子供たちは次の楽しみに向かってまるで走っているよう。

植樹場所では、なぜ部分皆伐するのか、なぜコナラやクヌギの苗木を植えるのか、苗木はどう育てたのかが説明された。「ドングリから勝手に伸びたのかと思っていた」という子がいた。木を植える事が大切だと記憶してくれたら嬉しい。

まず植樹のために掘られた穴を選び、2か所に準備された苗木、培養土を持っていき、親子で協力して植樹して記念の名札をかける。かなり上の方の穴を選んだ子供もいて親の方が付き合うのに一苦勞。一人で4本も植えた子もいたらしい。

最後に、各家族に2年前菌打ちされてキノコが出ている楢木、子供たち全員にならやま限定鹿の折り紙とジュズダマブレスレットをプレゼントして無事イベントは12時に終了。

今日植樹した木が、20年後、30年後、大きく育っている事を願っている。



<あ、かわいいのが出てる!>



<かなりの急斜面>



<やったね!自慢顔>

月例研修会

賀名生梅林散策と

農悠舎王隠堂で食事

田中 善英

3月3日、ひな祭りの日です。天気予報は大
雨の荒れ模様です。近鉄奈良駅前の商工会議所
跡地の前に参加者25名が集合しました。予定
時刻10時にお世話になっている生駒交通さん
の小型バスに乗り込み、出発しました。補助椅
子も使って満員状態です。

バスは一路、24号線、京奈和自動車道を通っ
て11時2分に五条インターを降りました。次
に168号線を南下、11時20分には五条市立
西吉野農業高等学校前に到着しました。大荒れ
のはずが、雨も降らず、曇りです。

天気予報が外れたのか、今日のメンバーが晴
れ男と晴れ女なのか、不思議です。急遽、予定
を変更し、食事の前に「ゆしおファーム天地の
テラス」へ行って、景色を堪能することにしま
した。食事をする予定の「農悠舎王隠堂」から
迎えに来てくれた、ワンボックスカー2台に分
乗して3回もピストン輸送してもらいました。



「ゆしおファ
ーム」は賀名
生梅林の北側
にあり、賀名
生梅林全体を
みる事ができ
ました。

12時30分、山の頂上からの眺めを満喫して
から、「農悠舎王隠堂」に全員が集合しました。



富井さんの
挨拶に続いて、
千載会長の乾
杯の発声で楽
しい食事会が
始まりました。

レストランの名前の王隠堂は名字とのこと。



南北朝時代に都
を逃れた後醍醐
天皇の一行をか
くまい、授かった
もので、経営者
のお名前でした。



食材はほぼ自家
製で旬の食材を中
心にしたものです。
説明を聞いて、食
事を堪能すると共
に、ワイワイガヤ
ガヤ、賑やかな食
事を楽しみまし
た。また、おひな
様や昔の農機具
や道具が展示さ
れていました。



約2時間のゆったりした食事を楽しみ、14
時30分に「王隠堂」を出発し、賀名生梅林に
約20分で到着しました。賀名生梅林の前には



後醍醐天皇から後
亀山天皇までの南
朝の賀名生皇居の
跡があり、その前
で集合写真を撮り
ました。



その後、賀名生
梅林で梅の花を楽
しみました。梅林
はずっと上り坂で、
途中から引き返す
人が続出。でも、

十分に梅の香りと花が楽しめました。

15時30分に賀名生を出発し、17時には奈
良に帰ってきました。ゆったりした旅を楽しん
だ一日でした。お疲れさまでした。

ならやま古今

八木 順一

もう16年が経ちました。入会を果たした後



ここ「ならやま」を探しあぐね、迷いに迷ってやっと木陰からメンバーらしき人の動く姿

を見つけて、ほっとした時から。遠き京都から訪ねたせいもあって、今更帰ることも能わず、「さあどうしよう」と探しあぐねた結果でした。しかも今度はもう一難。目の前のサイトへ行く方法も道もわからなくて駐車場に到着するまで20分余り。



それからのサイトの生活は朝から夕方まで、一日中草刈り機を肩にかけ、広い広いサイトの隅から隅まで草刈り一辺倒。

メンバーも基本的に2~3名の少人数(一緒に仕事をしたメンバーは今は鬼籍に)。広いならやまの南の端から北の端、特にサイトの駐車場付近を中心に、つんつるてんになるまで、草を刈ったことはいい思



い出ですが、北側の草刈りを済ませ、南側を刈ったころには、もう最初に刈った場所が草ぼう

ぼう、自然の逞しさと厳しさには目を見張りました。また、どうしても手が足りない場合には、会員全員に声をかけ、会全体の協働活動として、草刈り作業に取り組んだこともありました。



それでも機械の整備や草刈り作業をしながら、色々なメンバーと様々な話を交わすことは改め

て貴重な社会勉強の一ページでもありました。

この中では自然の会にかかわる話は勿論のこと、自分たちが過ごしてきた人生についても話を深めることができ、グループや会を離れた場所でも交友を続ける良きチャンスになりました。

また景観グループだけでなく、里山やエコ、そしてパトロールや果樹等すべての活動グループのメンバーとの横の関係も深くなり、加えていろんなクラブ活動も通していよいよここならやまを離れにくくなり、ならやまの人間関係の篤さには十分程頭が下がります、

今では会全体も組織的に十分整備され、今日は「人手不足のため作業はできない」などといった話も聞かなくなったように思えます。現在では、リーダーがいつも周りを見渡し、仕事の段取りは勿論のこと、メンバーが安全に働きやすいように休憩時間を適宜設定し、作業の途中で休憩をとる等の配慮に心を砕いている姿に頭が下がる活動日になりました。

これは、社会の組織を見回すと当然なこと、本会も長い時間をかけてここにたどり着いた、ということなのでしょう。

あと10年たったころには、このならやま、どのように変化していることでしょうか。ぜひ見てみたいものです。



<朝のラジオ体操>

海外ボランティア体験記

パナマ-3 (2003.4~2005.3)

木村 裕

今回パナマに赴任するシニア海外ボランティア(SV)8名(配偶者同伴が4名)が一同となって、日本を出発したのが4月1日、12時間後にアメリカのヒューストンへ。そこで1泊して、翌2日の夕方、無事パナマに到着。

現地の JICA 事務所の出迎えを受け、全員事務所が手配したアパートホテルに宿泊。翌3日、現地職員からパナマの概況説明を受け、身分証明書、自動車運転免許証、銀行口座開設、住宅の手配などの説明を受けた。

4日は運転免許証の申請のため、診療所で血液検査。注射器ではなく、ホッチキスのような物で親指にブシュッと針を突き刺され、そこから流れ出る血液を細いガラス管で採取されました。ついで銀行口座(シティーバンク)の開設の申請。最低限度額として1100ドルを入金。午後はパナマ市内の概況の勉強のため市内ツアー、各SVが赴任する役所(私以外は全員パナマ市内)、旧市街、新しいショッピングセンター、日本食材店(ここでしかカリフォルニア産の長粒米は手に入らない)などを巡る。

4月5日(土)からパナマ市内組の住宅探しが始まったものの、地方勤務の私はすることがなく、ホテル付近をブラブラ。

4月7日、パナマの窓口になっている経済財務省へ着任挨拶。そのあと JICA 事務所、携帯電話の取り扱い方、借家の契約方法、現地業務費、携行器材購入などの説明を受ける。

4月8日~22日は、午前中はスペイン語の研修、午後はパナマ組は家探しが続く。この間の私の仕事は、17日に赴任先の IPACOO 本部で着任挨拶のみ、19日は全員でパナマ運河ツアー。

4月23日、車で事務所の係員とともに David へ。3時過ぎに到着し、ホテルに荷物を置くとさっそく家探し。25日(金)に JICA 事務所の担当者とともに IPACOO 支局長への着任挨拶。それを最後

に付き添いはパナマ市へ戻ってしまったので、日本語とはオサラバ。以降は一人でスペイン語のみの生活となりました。

24日に偶然? この地区の山の中で活動している海外青年協力隊員に逢ったところ、赴任先の IPACOO では私が着任すること、パラグアイでの経験があること、スペイン語が話せることなどがすでに知れわたっている情報をえた。それゆえスペイン語が分からないフリが出来なくなってしまった。

28日(月)に初出勤するとさっそくスペイン語で事業説明をガンガンやられ、疲れること! 疲れること!

まだ西も東も分からないのに昼食時に女性職員が主催した Día de jefe (管理者の日)の簡易パーティーに私も招待されました。前の週に行われた Día de Secretaría (秘書の日)の返礼とか。主催者の挨拶、神への感謝、詩の朗読のあと食事(焼き飯もどき、飲み物、お菓子、アイスクリーム)。そのあと抽選があり、私にネクタイが当たったが、たぶん仕組まれたもの(と)思われる。仕組んだのではないかときいたが、そうではないと言っはいたが?

翌日、秘書嬢に昨日のお礼文を作って見せたところ、喜んで掲示板に貼ってくれたのには驚き。多くの秘書嬢たちも親しく挨拶をしてくれ、仲間として迎え入れてくれた模様で一安心。やはりスペイン語で会話ができたことがプラスになっているようだ。

また前任の SV が 2 年間活動した後の派遣であったので、地ならしはできてはいたのが幸いでもあった。前任者はスペイン語の研修を受けただけでの赴任であったので報告書を読むとかなり苦労された模様。とにかく日本語はもちろんのこと、英語もまったく通じない世界での活動であるので。当初困ったことは、借家は決まったものの、改修工事に時間がかかり、入居したのは5月21日、一か月近くホテル住まいで自炊が出来ないので食事に苦労しました。



旅の記憶

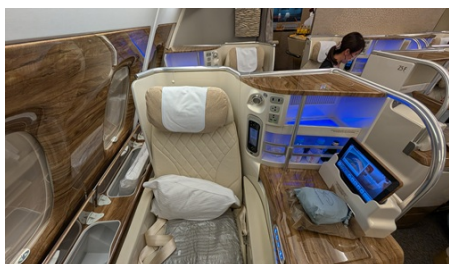
南米の旅-1 (イグアスの滝)

(2025年6月24日~7月7日)

尾崎 信次

生涯最後の贅沢ということで、南米ツアーに参加した。3回にわたって、写真を中心に簡単な説明を入れて紹介したい。

関空からドバイ経由でリオデジャネイロへ、飛行機に乗っている時間だけで25時間以上。

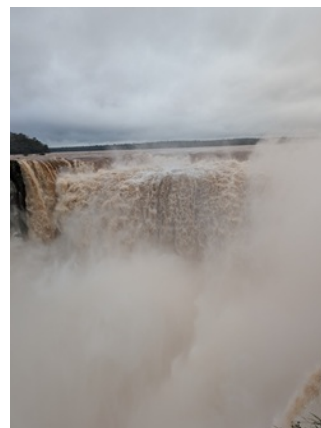


初めてのビジネス席、フルフラットで快適に過ごせた。

川中橋を歩く。前日までの雨で通常の2倍程度の水量らしい。滝の本流の所を「悪魔の喉仏」という。左は少し手前から、右は上からの写真。水煙で下は見えない。



という。左は少し手前から、右は上からの写真。水煙で下は見えない。



左に以前の洪水で流された橋が見える。右は④近くで本流ではないけど、この迫力。



(リオデジャネイロ、コルコバートの丘のキリスト像とセラロンの階段)。

国内線でイグアスへ。一泊の後、バスでアルゼンチン側へ。下はイグアスの滝の案内地図。川の右側がアルゼンチン、左がブラジル。①でバスから列車に乗り換え②で降り③の悪魔の喉仏まで川中橋を歩き、①へ戻り昼食、一部の人が船で滝の下へ行く間④まで歩いた。



ブラジル側に戻り、ヘリコプターに搭乗し上空からも見学。左側の水煙の所が悪魔の喉仏でやはり見えない。



翌日、サンパウロ経由でペルーのリマに飛び、次の目的地マチュピチュへ向かう。

きょうみ 森森

このコーナーは、会員の紹介をいたします。
 仲間の新たな魅力をお伝えするものです。
今回は、坂東 久平 さん (2012年入会)

私の座右の銘は、「運鈍根」です。大学時代の親友K君から卒業時に貰った色紙に記されていました。2025年、ノーベル賞受賞者の坂口志文氏と北川進氏が大切にしていた言葉で、研究や成功には「運」(幸運な出会い)、「鈍」(周囲に流されない鈍さ)、「根」(根気強さ)が必要だという教えです。

今後の目標は、執筆中の「私の履歴書」の完成です。

私の好きな花は、洋蘭です。北九州に居た時、会社の先輩から勧められ、2坪のアルミ温室を購入。大阪、奈良へと転居の度に解体、組立てました。一時は80鉢ほどありましたが、今は30鉢ほどに。カトレアが主体で、デンドロビウム、コチョウランなど。

カトレアの花言葉：成熟した大人の魅力



坂東さん
ご丹精の
カトレア
「Angel」

私の好きなスポーツは、昔は登山でした。2007年8月、最後の登山は槍ヶ岳です。

今は、ウォーキングで週2回ほど1万歩歩いています。車の運転も大好きで、24歳の時免許を取り、スバルN360からヤリスまで16台を乗りかえ運転しています。

私が大切にしているのは、家族です。妻、子ども3人、孫4人、曾孫1人。みんなが元気なのが幸せです。



坂東さんは、入会直後から会報誌の編集委員になられ、会のホームページを作成。2代目編集長として内容の充実にも貢献され、会の発展のために尽力なさいました。

カトレアの花言葉のように「成熟した大人の魅力」が内面から滲み出て、後輩にも優しく温かく接しておられるレジェンドです。

ご家族の写真を見せてくださる時に目を細められ、愛おしそうなお表情をされるのが印象的でした。



スバル N360

人生に影響を与えた人は、上司のY氏です。仕事から酒の飲み方まで教わり、家族ぐるみでお世話になりました。結婚祝いに当時まだ珍しかった「パブリカ」を貸して下さい、別府や青島などをドライブしました。

ペットは、犬の「ポリー」と「丸」。猫の「ムー」。「ポリー」は白と黒の2色で、散歩の時に小さな子が「ウーシ、ウーシ」と指さして、大笑い。「ムー」は藤猫で、近所の大将でした。いつも門の上に居て、「ニャー」と愛想を振りまいていました。18歳で大往生でした。

タイムマシンに乗るとしたら、30代の頃の北九州の工場。開発した新製品を現場で徹夜しながら試作していた場所へ。



Gallery ならやま



油絵 20F 菊屋、本店 永井 幸次



陶芸 ティータイム 桜木 晴代



写真 花筏2023 佐保川 國方 まり子



陶芸 子猫 小島 武雄

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

2026年3月度 幹事会報告

開催日：2月25日

- I. 会計・総務より
 - ・会員動向:会員数129名(家族会員13名)
 - ・会計:今年度予算は使い切り、3月分は予算超過見込み。来年度予算について協議
- II. 活動・行事に関する議題・懸案・確認
 - 1. 3ヶ月スケジュール検討・確認
 - ・総会;5月19日(火曜日)午前中開催
 - ・4月幹事会:4月25日(土)
 - ・蕎麦クラブ自主研修:3月7日(土)
 - 2. ならやまプロジェクト関係
 - ・実りの森の楠の伐採は見送る
 - ・まかない(豚汁)は3月12日で終了
 - 3. イベント関連
 - ・3/28(土)佐保川ワイワイ桜祭り
 - ・4/2(木)ならやま桜祭り、スタッフ募集
春のならやま自然観察会は13時開始
- III. 助成金関係
 - ・進捗状況、申請状況確認
- IV. 特定議題
 - ・幹事改選:推薦状況確認、調整中
 - ・2026年度イベント計画:
 - ・山の日川の日の飯盒炊さんの実施方法、
内容について再協議
 - ・佐保台小学校の放課後教室については日
曜日開催の希望がある
 - ・総会資料:素案を取りまとめて3月幹事会
にて協議する
- V. 広報関係
 - ・会報誌の編成、執筆者の確認
- VI. 報告・連絡事項、その他
 - ・月例研修会:賀名生梅林(3/3) 24名参加
 - ・自然観察会:春のならやま自然観察会(4/2)
 - ・火災予防の為、たき火は2人以上で管理
 - ・安全面から山林などでの1人での活動は原
則禁止する。

次回 3/31(火)西部公民館 14:30~



「1月は一目散、2月は逃げる、3月は去る」という言葉があるように、お正月もミラノオリンピックも「あっ!」という間に終わり「桜の開花はまだか?」と騒ぐ4月になってしまった。

私自身子供の頃は、季節の移り変わりに関心がなく、桜が綺麗だった記憶はない。この年齢になって色々な場面の桜を見るたびに、綺麗だと思っただけでなく桜と共に昔から人々は詩を読み、集い、出会い、別れたんだろうなんて想像するようになった。4月はならやまでも桜祭りがあり、新人会員歓迎会や観察会が開かれる。

ならやま名物「川井桜」を囲んで2026年度のスタートとなる。

会員のみんなが、身体を大事にしながら楽しく過ごせる年になればと願っている。そしてこれから来ると予想される暑さにも、生き物も人間も負けない年になるよう祈っている。



5月ならやま活動&行事予告

- *ならやま活動 5/7 協働活動日
- 5/19 総会

会員動向(敬称略)
<退会者> 3/30 平山 美津子 死去

発行:奈良・人と自然の会
URL : <http://www.naranature.com>
編集代表 Mail: editor@naranature.com
編集委員:青木(幸)・尾崎・柴田・千載
田中(善)・戸田

表紙写真:コナラ、クヌギの苗木を育てるため、ドングリを植えています